

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームと (1号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最期は自分が住み慣れた場所で迎えたい」「最期まで自分の好きな事をしたい」この想いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。その場限りのお付き合いではなく、最期を迎える時に「ここで(ると)よかった」と感じて下さるよう、心のこもったケアを今後も実践していきたいと思ひます。「ゆったり 楽しく 仲良く」の理念のもと、入居者の方とスタッフが同じ時間の中で支えあいながら穏やかに過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

*「ゆったり・楽しく・仲良く」という理念は理解しやすく覚えやすい。全職員の思いが込められている。職員と利用者が仲良く談笑している光景は家庭的で理念そのものであり、室内は穏やかな雰囲気にもまれていた。
 *毎月1回開催されるミーティングでは、管理者から発言を指名したり、不在の職員は意見を書いて預ける等、全職員が発言できるように工夫している。職員が意欲的に参加することで日ごろのケアに対して更に思索を深める結果となり、介護の質の向上に繋がっている。
 *重度化しても住み慣れた施設で安心して暮らせるよう、ターミナルケアに取り組んでいる。管理者と職員が看取りの方針を共有し、「るとで良かった」と思えるような支援を実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり 楽しく 仲良く」との分かり易い言葉の理念を掲げ、スタッフ全員が共有できるようにしています。	全職員で考えた理念は、理解しやすく覚えやすい。「ゆったり・楽しく・仲良く」過ごせるようにとの思いが込められており、常に理念を念頭に置き、日々の介護実践に反映している。職員と利用者が一緒に座って新聞を読み、ゲームをし、談笑している光景は理念そのものであり、室内は穏やかな雰囲気になっていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域主催の祭りに、作品展示という形で参加しています。職員は準備などで参加していますが、日常的な交流までにはつながっていません。	運動会やお祭りなど、地域の行事に参加して交流を図っている。目標達成計画に課題として掲げて可能な範囲で努力しているが、進捗状況は遅々としている。運営推進会議を活用することで、多様な交流の広がりを模索している。	気軽に参加できるような行事を開催し、地域住民を招待するなどして、交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に介護教室を開催し、認知症ケアに関する啓発活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では委員からの意見を全職員で共有しサービスに反映するようにしています。	運営推進会議は、公民館長・民生委員・消防団長・地域包括支援センター・家族代表の参加を得て開催されている。議事録には豊富な写真を用いてホームの活動内容を解りやすく説明してあるが、意見交換が活発であるか確認できなかった。管理者はこの状況を改善するために、他事業所の有効な取り組み等を紹介し、より意義のある運営推進会議となるよう努力している。	運営推進会議のテーマを設定するなどして、意見交換の円滑化を図られることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換・相談など、密な連携に努めています。	報告書等を市役所に提出する際に情報交換を行っており、キャラバンメイトのスキルアップの研修について情報提供を受けている。質問や相談等の事案については相談しやすい体制が取られており、的確で迅速な対応で連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束に関する外部研修に参加してもらい、他職員にも伝達、啓発活動を行っています。また日常のケアにおいても、お互いのケア内容を確認しあい、拘束や虐待にならないかと考えるようにしています。	全職員で作った手づくりのマニュアルは、項目別に整理されたチェックリスト方式が採用されている。日頃のケアをもとに作成されており、具体的で実践に結びつきやすく感じられた。また、外部研修には積極的に参加しており、参加者はレポートを作成してミーティングで発表し、情報の共有化を図っている。尚、これらの研修で、拘束に関する意識を更に高め、どんな場面でも拘束をしないケアに繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には高齢者虐待に関する外部研修に参加してもらっています。(上記記載研修に含まれる)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	上記研修の中に含まれており、学ぶ機会があります。現在は対象者がいませんが、必要時には適切な対応が取れるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を十分に理解して契約していただくように説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回家族会を行い、御家族様の意見の出やすい環境を作り意見をうかがっています。他面会時なども意見をうかがうようにし、全職員で共有するようにしています。	家族会は毎月開催しており、職員の手料理を前に利用者・家族・職員全員が共にテーブルを囲むことによって、話しやすい雰囲気で作られている。家族が日ごろ話せないような事も、そこでは話題になり、食事の摂食状態などの疑問点や質問・要望に対しても丁寧な説明が行われている。尚、健康上の問題など個別に面談が必要と思われる利用者家族には、別途ゆっくり時間を取り、面談が実施されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行っているミーティングの時には積極的に意見を出し合い、提案などを行っています。	新人職員から夜勤業務での新鮮な視点で気づきや提案が出される等、活発な意見交換が行われている。発言は管理者から指名したり、不在の職員は意見を書いて預けるなど、全職員が意見を言えるように工夫されている。それが日ごろのケアに対して更に思索を深める結果となり、全職員の「考える介護」に繋がられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表や目標管理シートを活用し、勤務状況の把握と職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加してもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会天草ブロックに参加し、勉強会や意見交換を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、御本人の話をよく聞き、その方の思いや考えを把握できるように心掛けています。可能であれば、入居前から面談を行い顔なじみの関係を作るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からご家族様との関係を良好に保てるようにし、悩みや要望などを話しやすい環境を作れるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを踏まえ、適切なサービスが支援できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、スタッフが利用者に方法を訪ねたり、行事などの意味を訪ねたりしています。お互いに知っている事を話したりと交流し、支えあいながらの暮らしの場面を作るように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の連絡をこまめに行い、ケアに関する困りごとなどはご家族にも相談、ともに解決していくようにし、意識共有を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が継続できるように努めています。	利用者の状況を良く知った上で、より良い介護につなげたいという視点から、全職員で作った人生歴の様式がある。活用していく中で、不備な点を随時埋めていき、更なる充実を図っている。入居時に人生歴とは何かを家族に説明し、出来る限り詳細に記録してもらい、ケアのヒントを得ている。行きつけの美容室やお墓参り、馴染みのお店、また定期的に宗教関連の集会に家族の協力を得て参加するなど、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを考え食事の席の検討や、他余暇時間の交流をスタッフが間に入るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時は適切に対応するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段、日常生活の会話の中からも本人の意志、意向の把握を行い実現できるように工夫しています。困難な場合でも利用者本位のケアが行えるように心掛けています。	冗談や軽口など、日常会話の中に本音が不意に出てくる場合があることを重視し、利用者の言葉は忠実に記録して、職員間で言葉の意味の背景を探りケアの改善に繋げている。質問時は利用者が答え易いように、具体的な選択肢を用意する等、意向の把握に努めている。毎日散歩に出る方が、出かけた事を失念することがあっても、出掛ける都度喜ばれるので、利用者の意思を大切にし、天候に左右されず欠かさずの外出が試みられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から入居時に人生史を記入していただいています。また全利用施設などからの情報収集を行い、他親しい知人の方の面会があった時なども会話などから情報を読み取るように心掛けており全職員での共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの状態や残存能力を把握し、表情の変化や、訴え、サインを見逃さないように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフなどから情報収集をし、アセスメント・モニタリングを行っています。その後介護計画に反映されるように作成しています。	介護計画は、3か月に1回見直しを実施。一人の職員が1名から2名の利用者を担当しており、担当者がアセスメント・モニタリングを行い、各ユニットの申し送りやミーティング等で全職員で検討している。作成に当たっては、具体的に誰が見ても解るプランであることを重視し、楽しく穏やかな生活が出来るプラン作成を心掛けている。定期的な見直し以外にも、心身の状態や意向の変更に対応し、看取りのプラン等現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動障害の症状に関する記録や、会話内容など細かく記録を残し、その内容を考察し介護計画に生かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対応し、サービスの提供ができるように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の協働はありませんが、美容室からのボランティアを受け入れています。他、個々のニーズに合わせて買い物や、美容室などのお出かけ支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望を尊重し、かかりつけ医を決めるようにしています。また適切な医療診療が受けられるように受診の援助を行っています。	利用者・家族の希望に沿ったかかりつけ医の利用となっている。通院介助は、家族や職員が必要に応じて対応している。受診時には経過について口頭で報告し、医師からの指示は経過記録及び申し送りに記録して情報を共有している。皮膚科や歯科等の専門医の受診についても、個別症状に合わせた支援で安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察を行い異常の早期発見に努め、変化などの情報を共有し協力体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には、入院先の医師や看護師と情報交換を密に行い、医療連携をとっています。面会も頻回に行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについての説明を行い、同意をいただいています。また、本人とご家族の意向を含め、より良い最期を迎えられるように全職員心掛けています。	重度化しても、住み慣れた施設で安心して今までの生活が継続できるように、ターミナルケアに取り組んでいる。終末期においても心安らかに過ごせるよう、入所時にターミナルケアに係る条件等の詳細を記した書面を用いて説明し、意思確認を行っている。音楽や花・香りなど、五感を使って心を落ち着かせる工夫があり、採光・風通しなど環境面の配慮も欠かさない。看取りの経験を心の負担と捉えず、貴重な学びの場として活用し、日ごろのケアに反映している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な経験者が少ないため研修が必要ではありますが、現在実施できていません。新人スタッフには施設内の研修に参加してもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は事業所内にて定期的に行い、法人全体での防災訓練も年に2回、日中と夜間想定で行っています。また、地域の消防団と連携し消防訓練を行うようにしています。スプリンクラーも設置済みです。	利用者が参加する法人全体の通報・消火・避難誘導の総合訓練では、消防団の協力を得て開催され、アドバイスをもらっている。有事に冷静に対応できるように、事業所では毎月通報機や消火器の設置場所を確認し、新人職員に対しても防災意識を高めてもらうために、入職時には消火器と通報に関して詳しく説明が行われている。非常用の備蓄は、水・食糧などをリストアップし7日分準備されている。消費期限を確認の上入れ替えを行い、利用者・職員全員で味や量を確認しながら活用している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳が損なわれないように、職員間で常日頃から確認しあい、対応を行うようにしています。	方言を使ったり丁寧な言葉を使うなど、生まれ育った環境を考慮して、一人一人に合わせて対応し、信頼関係を築いている。人生歴等を参考に利用者が触れられたくない話題は出さないことを心掛け、尊厳に深くかかわる入浴・排泄等については、誇りやプライバシーを損ねないよう声かけに注意し、さりげない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での事は、入居者自身に決定をしていただくように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や季節の行事など、御本人に尋ね参加を促しています。時折参加されない時もありますが、次の機会には参加されたりとその日の気分などを伺いながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着てもらったり、化粧品なども使い慣れたものを用意するようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、季節感を感じられるようなメニューを立てるようにしています。温かいものは温かく、冷たいものは冷たくと気を付けて提供するようにしています。利用者には食材の下処理などをお願いし職員と一緒にこなしています。	食事の画一化を避けるために手間を惜しむことなく、各ユニットが独自のメニューを作っている。各ユニットで全職員の参加によって作られたメニューは、季節感・栄養バランスに配慮し、利用者の好みや反映されたものとなっている。メッセージボードに表示された「おしながき」は、季節感のある装飾が施され、文字が大きく読みやすく配慮され、食事の時間を待つことも楽しみの一つとなっている。食事中は職員が目配り気配りしながら、和やかな雰囲気での食事が展開されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握をし、摂取量が少ないときには、好みの食べ物を用意したり、栄養補助食品を活用し不足分を補うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや援助を行っています。夜間は義歯洗浄剤を活用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するように努めています。時間をみながら排泄のサインを見逃さずに誘導しトイレでの排泄を心掛けています。	全職員で話し合いながら作った排泄チェック表は、1週間分が把握でき、効率が良く活用しやすくなっている。入所者の動きや態度で察知し、排泄誘導する事もあり、紙パンツやパットは様々な種類を準備し、一人一人に合った物を夜間・昼間帯に合わせ、工夫しながらトイレを基本として自立に取り組んでいる。夜間は安眠できるようにポータブルの使用も実施されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用したり、食後にヨーグルトを提供したりと工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的な入浴のお誘いもおこなっていますが、他に希望があった時にも対応しています。ゆっくりと入っていただけるようにマンツーマンの対応を行い、入居者に合わせた時間を確保できるように心掛けています。	入浴は週3回が基本で、希望によって毎日の入浴も可能。ターミナル期に入った利用者には、二人介助を行い、最期まで清潔を保っている。入浴の時間帯やお湯の温度・時間の長短等、好みに合わせて一人一人満足できるよう支援している。入浴嫌いの利用者は現在皆無。テレビの時代劇を楽しみにしている利用者には、声かけのタイミングを配慮し、菖蒲湯・バラ湯・天草らしくポンカン湯を楽しむ等の工夫も実施している。尚、マンツーマンの対応でゆっくりと入浴でき、会話を楽しむ時間ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者1人1人にあわせ、居室で休まれる方やソファでゆっくりされる方などそれぞれに対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれの処方箋をファイルし皆が見れるようにしています。病気と薬の種類などそれぞれスタッフが把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の楽しみなどを個別的に対応・支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の希望に沿い急な希望でも対応できるようにしています。ご家族に協力をお願いすることもあります。	グループホーム周辺を散歩し、四季を感じながら外気に触れることで気分転換を図っている。桜・藤・つつじ・サザンカ・あじさいなど季節の花を求めて、バスハイクも計画されている。その際お弁当を持参したり、外食をすることもまた楽しみのひとつとなっている。尚、希望者には誕生日に職員・ボランティアと外食することもできるように工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者のそれぞれの管理能力にあわせて支援するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状や暑中見舞いを手書きでの作成を援助し、家族や遠くにいる親戚・知人などに送れるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、温かい光や快適な風などが取り込めるようにしています。	広いリビングは1号館は中島潔、2号館はいわさきちひろの絵が飾られ、心和む空間になっている。形や材質・大きさが異なる椅子やソファが至る所に設置されており、利用者は好きな場所で毛布を掛けて横になったり、職員と会話を楽しんだりと自由にゆっくりと過ごしている。足音や話し声・不快な音に関して十分な配慮があり、静かで穏やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを設置し、ゆっくりと過ごせるようにしています。食事の席なども、利用者同士気の合ったもの同士で食べられるようにセッティングしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるときに、なじみの家具や品物の持ち込みをお願いしています。本人にとって居心地の良い部屋づくりに努めています。	ダンスとベッドは備えてあり、その他は好みのもので、自分らしい部屋作りがされている。各部屋にある温度計で室温や湿度を確認し、加湿器やエアコンを職員が調節し、利用者の体調に配慮した環境が整えられていた。部屋で過ごす時間は、利用者の孤独をいやすように静かな心地よい音楽を選曲し、BGMとして流している。居室入り口の手作りの名札は、庭に咲く木蓮の花の写真を利用したもので、利用者の心を和ませている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解力やADLLレベルに合わせての対応を行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370700447		
法人名	医療法人社団 開会		
事業所名	グループホームると (2号館)		
所在地	熊本県天草市下浦町2090-7		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「最期は自分が住み慣れた場所で迎えたい」「最期まで自分の好きな事をしていたい」この思いから私たちのグループホームはターミナルケアまで取り組んでいます。その場限りのお付き合いではなく、最期を迎える時に「ここで(ると)よかった」と感じて下さるよう、心のこもったケアを今後も実践していきたいと思ひます。「ゆったり 楽しく 仲良く」の理念のもと、入居者の方とスタッフが同じ時間の中で支えあいながら穏やかに過ごしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年11月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり 楽しく 仲良く」と分かり易い言葉で理念を挙げ、スタッフ全員が共有し実践につなげるよう努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に地域交流を行うになかなか至れず、今後は運営推進会議を通して交流の機会を増やせないか検討中です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座の講師を務めるスタッフがいます。また介護教室も定期的に開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の定期的な開催を行っており、都度その間の報告も行っています。推進委員へは積極的な意見を求めるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者間での連絡や情報の交換など、密な連携作りに努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所独自のマニュアルを作成しています。玄関の施錠やベッド柵の使用も拘束に当たるという認識を日頃から伝えていきます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの方法が虐待に当たらないか、また誤解されるような方法ではなかったか等スタッフ全員で確認し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、利用に至るまでの背景は全スタッフが周知していますが、制度についての学習の場は設けていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にすべてのご家族へ説明を行い同意を得ています。解約または改定時にも都度説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見等あった場合には、すぐに全スタッフへ周知するようにしています。日頃より「疑問や要望はありませんか」とこちらから問いかけるよう心がけています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者を含めたミーティングを開催しており、その際には自由な意見が出せるよう管理者からの問いかけを行い、また参加できないスタッフについては意見を預かるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己管理シートを活用し各スタッフの仕事に対する目標や頑張り度などを把握できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修または施設内の勉強会には積極的に参加しています。また研修を受けるスタッフが偏らないようにしたり、研修内容に合わせたスタッフの選出を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われる天草地区のグループホームの代表者によるブロック会議に出席しており意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは本人の話をよく聞き、その方の思いを把握するところからケアの実践にあたっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初または、その時々に関係の方の思いを聞くようにしており、その思いをケアの中に取り入れるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの中だけにこだわらず、他のサービス利用も含めた柔軟な対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃より入居者の方へお尋ねしたり、頼ったりする場面作りに努め、お互いに支えあいながら暮らしていけるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の面会時に都度、現在の様子をお伝えするようにしています。身体的・精神的に変化があった場合も事実を包み隠さず伝える事で現在の様子を共有できるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されるまでの生活史を大切にする事もケアに役立てると考えています。それらの事が継続できるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに穏やかに暮らせるよう、またそれぞれの関係が劣悪にならないよう配慮して席を設けています。関係に変化があった時は都度、席替えも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方から相談があった場合は都度、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の思いを把握できるように会話を多く持つよう努めています。パーソンセンタードケアの実践に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に「人生史」をご家族の方に記入していただいています。入居までのサービス利用暦も連携をとり把握できています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方、一人ひとりのペースで過ごして頂いています。またそれぞれの方の残存能力に応じたお手伝い等をお願いしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりのプランの期間に合わせてカンファレンスを開催しています。出た意見は都度プランに生かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の経過記録はSOAP形式を使い、気づきや会話内容は蜜に記入するようにしています。また特に周知徹底したい内容については蛍光ペンでラインを引き分かりやすいようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な情報やサービスを利用できるよう、視野を広げる努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりのニーズやADLに合わせた外出の支援も積極的に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設に内科もありますが、本人の希望で他の内科を希望される場合には家族と話し合いながら受診の援助も行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態は訪問看護師に都度、報告しています。また定期的な検査も訪問看護師と日にちの調整(予定日に本人が不穏な場合は日にちをずらす)をしながら実施しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は本人の様子を見ながら面会を行い不安を取り除くようにしています。また入院先の医師や看護師とも情報交換を行い退院の時期についても都度話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアを行っている事を家族に説明し同意を得ています。また実際に終末期となった場合は再度、医師より家族への説明を行っています。スタッフ全員でターミナルケアへ取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練や講習はほとんどのスタッフが受けていますが実践に至ったスタッフは乏しく、今後は実践への努力が必要と思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、事業所独自の防災訓練を行っています。新人スタッフへは火災報知機や消火器の説明も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた声かけや対応を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場において、何かを選択できるような場面作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段より業務優先にならないよう常に配慮しています。また行事への参加についても拒否がある場合は無理強いしないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの衣類の好みを把握し、また「今日の洋服(髪型等)とってもステキですね」と声かけし、入居者自身が自分の身だしなみに関心を持たれるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が必要な方には、なるべく「自分で食べている」という実感が持てるような介助の方法をとるようにしています。(スプーンを持つ手を介助等)またそれぞれの食の好みも把握し対応しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量はチェック表にて把握し、量が少ない方には補助食品の活用を行っています。また日頃より飲水量の少ない方へは都度の水分量をチェックし把握するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と臥床前に口腔ケアを行っています。また食事の摂取量と口腔内環境の関係にも日頃より注目するようにしています。(炎症や義歯のズレ等ないか)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの方の排泄チェック表を活用しながら、できる限りトイレでの排泄を促しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より旬の野菜を食材にした献立作りを心がけています。また朝食時、希望される方にはヨーグルトも摂って頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的な入浴の声かけも行っていますが、基本的にはご本人の入浴したい時に入って頂くようにしています。スタッフとマンツーマンでゆっくり入浴を楽しまれています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は基本的に入居者の方の好きなように過ごしていただいています。夜間不眠傾向にある方は薬に頼らず、外出の援助を行うようにし夜間眠りやすい環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方の処方箋は変更の都度ファイルし把握に努めています。薬の作用等については病気と照らし合わせながら把握できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせた楽しみ事の支援をしています。全員で一つの事を行う事もありますが日頃は個別対応をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な個別の外出にも対応できやすいよう日勤職員の数は多めに配置しています。その際家族の対応が良いと判断した場合には依頼し協力をお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者の方のレベルに合わせた対応をしています。現在は自分で財布を所持し、支払いまで行う方がいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に2回、年賀状と暑中見舞いをご家族及び本人の希望される方に出しています。電話も希望があればいつでも掛ける事ができ、掛かってきた電話への対応も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内での雑音へは常に配慮しています。また外光の射す場所や反射する場所も把握し刺激とならないようにしています。館内には季節の花を飾るようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集まるホールには、それぞれの場所にソファを設置しています。入居者同士の人間関係に配慮しながら過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、本人にとって馴染みのある家具や品物の持込をお願いしています。本人にとって居心地の良い部屋作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者のADLや理解力のレベルに合った対応をしています。		